
「子猫拾いました」

Niya

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「子猫拾いました」

【Nコード】

N3589I

【作者名】

Niya

【あらすじ】

偶然出会った彼女を想う男の話。

ただ、ふたりでいるだけで幸せだった。
それ以上何も望んでいなかったのに……。だから、だからこうなってしまったんだよ。

僕は23歳になった日に、彼女と出会った。

冬の寒い日の夜、閉店した店の前でひとり泣いていた。
深夜0時にこんなところでひとりでいるなんて、と思いつつも僕もひとりでこんなところにいる。

僕の場合はコンビニへ行った帰りだから別に变でもなんでもないが、彼女はそうではない。
声をかけようか迷った。

彼女の前を通り、2、3歩過ぎた時に思い切って声をかけた。
「どうしたんですか？」

彼女はうつ向いたまま、黙っていた。
やはり声をかけるのはやめた方がよかったかもしれない。そう思った時彼女は僕をゆっくり見た。

泣き顔がまるで捨て猫のようで、拾ってくださいと言っているように見えた。

「大丈夫ですか？」と、聞くとポツリポツリと彼女は話し始めた。
どうやら誕生日だった今夜、この店で彼と食事をする予定だったが、突然別れを告げられたそうだ。

「偶然ですね。僕は今日が誕生日なんです。1日違いですね」
慰めるつもりで微笑んでみたら、彼女も少し微笑んでくれた。
「よかったら僕の家で誕生日をしませんか？」

思わずそんな言葉が出て自分自身でもびっくりしたが、彼女の顔が少し元気になったように見えたので、言ってよかったとほっとした。

もう1度コンビニへ戻り、小さなショートケーキを2個買い、彼女と僕の部屋へ行った。

「一人暮らしで汚いですけど、どうぞ」と、彼女を招き入れた。

この部屋に他人が入るのは初めてだ。大学を出て就職を期に一人暮らしを始めたが、人と関わるのが苦手なので、他人を家に招くまでの親友はできなかった。

だが、彼女の場合、なぜか抵抗なく入れることができた。

「ビールしかないけど、飲める？」

彼女はソファにちょこんと座り、コクンと頷いた。

明るい部屋で見る彼女の顔はとても可愛く、まるで子猫のようだった。

小さなショートケーキとビールでふたりの誕生日を祝った。

そして同じベッドに入り、初対面の彼女と・・・・・・・・やってしまった。

それからふたり暮らしが始まり、幸せな生活が続いた。

続いていると思っていた。

「ただいま」と、僕は玄関を開けいつものように出迎えてくれる彼女を待った。

だが、この日は部屋の中がしーんと静まりかえり、様子がいつもと違うので、靴を脱ぎ部屋の中全てを探し回ったが、彼女の姿はどこにもなかった。

「なぜ・・・・・・・・」そう呟き、茫然と床を見つめた。

突然いなくなった彼女はどこへ行ったのだろうか。探す術もなくただただ毎日が過ぎて行った。

部屋の中には彼女が使っていた小物があちこちの置いてあり、片づける気力もなくそっと触っては彼女のことを思い出していた。

それから2週間が過ぎた日曜日、彼女は突然帰ってきた。

昼まで寝ようと決め込んで布団に丸まってテレビを見ていたら、いなくなったことを詫びることもなく、当然のように家の玄関を開け、布団にもぐりこんできた。

「おいっ！　今までどこへ行ってたんだ！」と、僕は布団を思い切りはぎ取り、彼女に言った。

すると彼女は怒られた子供のように涙ぐみ、僕を見ていた。

「今度いなくなったらもう入れてやらないからな」

僕は彼女をぎゅっと抱きしめそう言っていると、彼女はコクンと頷いた。

だけど。

僕は不安でいっぱいだった。またいなくなってしまうのではないか、帰ってこなくなるのではないか、他の男と会ってるんじゃないかと。

その夜、僕は彼女が寝息を立てているのを確かめると、そっと鼻と口を塞いだ。

完

（後書き）

素人作品ですのでお手柔らかに批評をお願いします m
|
m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3589i/>

「子猫拾いました」

2011年1月3日18時56分発行